

令和元年度 大学機関別認証評価における基準項目ごとの〈優れた点〉

「基準 2. 学生」

- 入学前課題の結果を、アドバイザーが学生の学修指導に利用し、導入教育につなげている点は評価できる。
- 入学後に新生生に対してアンケートを実施し、集計結果の分析を学生募集活動の実施計画策定に活用している点は評価できる。
- 学籍異動と成績・出席状況等のデータをもとに分析し平均授業出席率が一定程度低い学生の傾向を明らかにし、中途退学の防止として対策を講じている点は評価できる。
- 障害のある学生について、在学生に対してはアドバイザー、新生生に対しては保健・衛生委員が意見を本人より聴取するなど、修学支援を行う体制が確立されており、SD(Staff Development)研修等にて学内者に加えて兼任教員に対して理解を求めるなど、全学的な合理的配慮を啓発し、リーフレットなどで教職員や学生に周知がなされている点は評価できる。

「基準 3. 教育課程」

- 「学生による授業アンケート」の集計結果に基づいて、改善が必要である専任教員に対しては、授業改善の方策等をまとめた報告書を提出させ、面談によって改善計画の具体的な内容について聴取する組織体制を整備して運用していることは評価できる。
- ディプロマ・ポリシーに基づく課程修了時の資質・能力を学修目標として設定し、それに対する到達度合いを尺度で示す評価基準表として作成したルーブリック評価を学期ごとに行って学生の学修成果を把握し、当該学生の学修目標に対する到達度を客観的に評価して今後の学修計画に必要な指導・助言を行っていることは評価できる。

「基準 4. 教員・職員」

- 教員相互の研修機会として授業公開を全教員参加で実施し、集められた情報を授業改善に役立てていることは評価できる。
- 国内外での長期にわたる教員研修制度、学内の共同研究制度を設けて、研究活動を積極的に支援していることは評価できる。
- 科学研究費助成事業をはじめとした各種財団等の研究助成金の導入に組織全体で取り組み、成果が挙げられていることは評価できる。
- 競争的研究資金の積極的な獲得を可能とするために、科学研究費助成事業補助金の応募に際しては個人研究費にインセンティブ経費を加算することで、令和元(2019)年までの採択研究資金が増加していることは評価できる。

「基準 5. 経営・管理と財務」

- 災害時に備え、想定根拠を明確にして食料や水、防災用品（毛布、簡易トイレなど）の必要数を算出するなど、計画的に学内に備蓄・更新しており、学生及び教職員の安全面に備えていることは評価できる。

「基準 6. 内部質保証」

- 大学独自の「自己点検評価書」を作成する際に外部の協力団体からの意見を取入れるなど自己点検・評価活動に学外者の参画を継続的に得ていることは評価できる。